

WS 開催概要

日時：2016年9月4日（日） 10:00～12:30

場所：豊田市役所東庁舎 7階大会議室

参加者：43名（6-9名×6班）

座長：小林正美氏（明治大学副学長）

星卓志氏（工学院大学教授）

星野裕司氏（熊本大学大学院准教授）

【つくるチーム】

大藪善久、足立真一、馬場睦、東田研介、松蔭香織 (NSC)

熊谷玄、成富文香 (stgk) 渡邊篤志 (WAO) 番場俊宏、坂田旭 (abanba)

【つかうチーム】

泉英明、園田聡、岸本しおり (HBP)

運営：豊田市・日建設計シビル (NSC)・ハートビートプラン (HBP)

プログラム

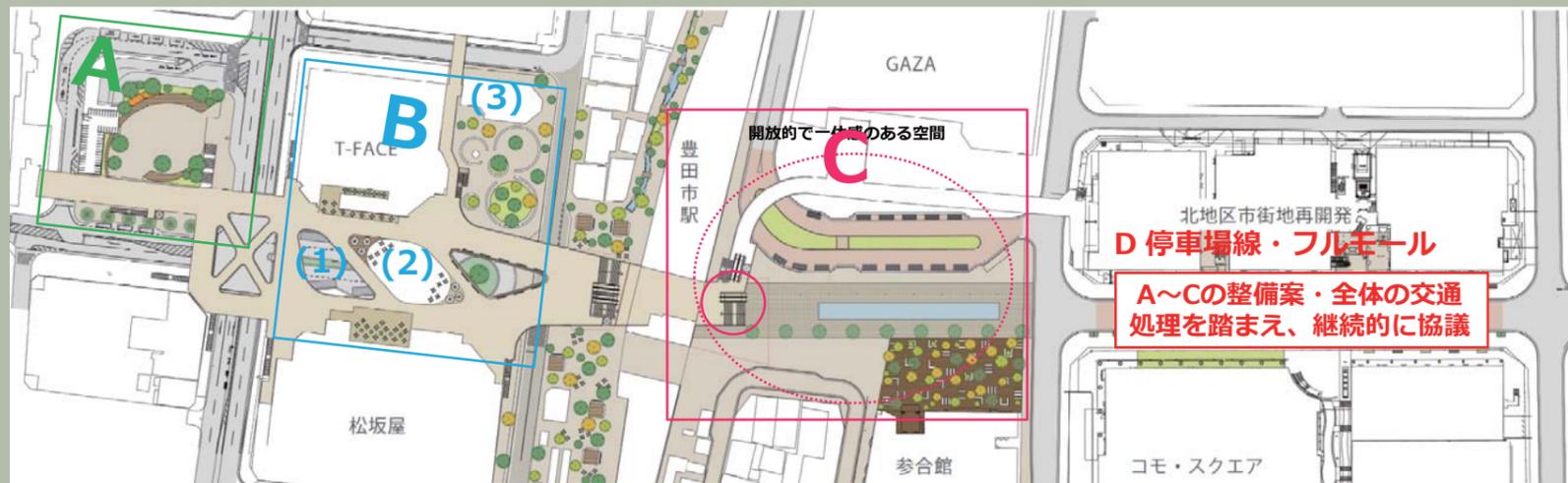
- ①ご挨拶
- ②第2回WSの振り返り
- ③豊田市より説明
- ④未来部会より発表
- ⑤つくる・つかうチームの提案内容
- ⑥各班ワークショップ・発表
- ⑦まとめ

今回のワークショップでは、前回WSの振り返りの後、豊田市から交通シミュレーションの結果と、段階的整備の考え方が示されました。その後、地域を代表する豊田の都心を育てる会未来部会からの提案・

意見が出され、それらと共に、つくる・つかうチームの提案内容が説明されました。最終整備の姿を見据えながら、どこで誰がいつ何をすることをテーマに、テーブルディスカッション方式にて議論を行いました。豊田市駅西口デッキ・豊田市東口まちなか広場・停車場線において、様々なシーンで、誰が何をするのかの多くの意見が出され、それに対し、各施設との連動やマネジメントの仕組みづくり、整備への反映が必要と提案されました。

豊田の都心を育てる会・未来部会の提案・意見

豊田市都心環境計画・都心地区空間デザイン『広場のつくり方・デザインについて』（中間報告）



A 新豊田駅東口広場

アクティビティ・スポーツ（目的性の高い空間を目指す）



C 豊田市駅東口まちなか広場

開放的で一体感のある空間（通りではなく広い空間）



B 豊田市駅西口デッキ

(1) 豊田市駅西口バスターミナル

グランドセントラル
明るく開放感のあるバスターミナル



(2) 豊田市駅西口デッキ(上)

隣接する商業施設と連動した、憩いの空間

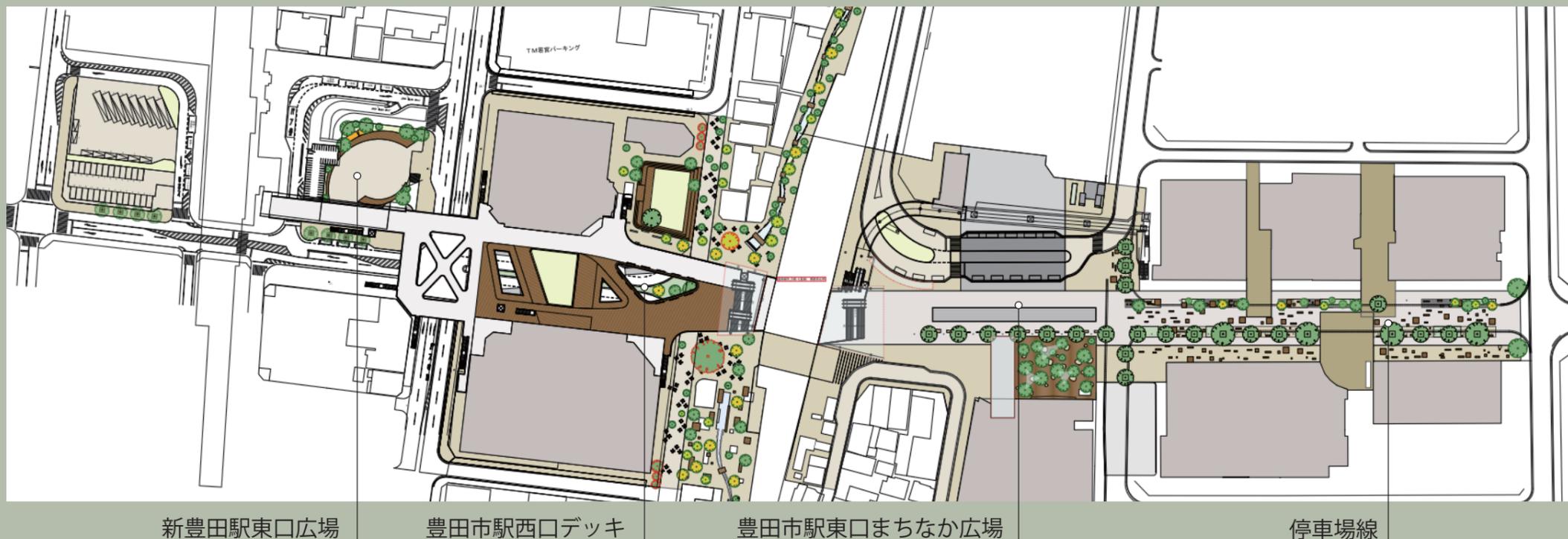


(3) シティプラザ

バスターミナルやT-FACEと連動した活用



最終将来形・最新検討プラン



各班ボード写真

1班



2班



3班



4班



5班



6班



WS で出た主な意見

	【豊田市駅西口デッキ】	【豊田市駅東口まちなか広場】	【停車場線】
平日朝	通勤通学客が朝食	高齢者がラジオ体操・朝ヨガ	近隣住民の散歩
平日昼	子育てママが子どもを遊ばせながら飲食	親子が遊びと食事を出来る場所	アート・花・彫刻の販売
平日夕	旦那と待ち合わせの場所	中高生が放課後勉強	中高生カフェデート
平日夜	30-40代サラリーマンの飲み会集合場所	ビジネスマンの飲み会（飲食の充実）	家族が映画後に食事
週末朝	体を動かすイベントの開催	図書館と連動した読み聞かせイベント	農家の人による朝市
週末昼	フリーマーケットの場所	パブリックビューイング	ライブイベント
イベント	ハローウィンパーティ 流しそうめん	拳母まつり対応 トヨタ自動車のカーイベント	主婦のためのマルシェ 映画鑑賞会

アドバイザーのコメント

- WSを通して市民の意見が共有出来てきているように感じる／その場所にあった広場のあり方として、様々なバリエーションがあるのが良い
- 施設との連動やエリアマネジメント などソフトの話が考えられていることも素晴らしい
- 今回WSのように『誰が何をやる』など想定してデザインされるのは最近のことであり、それを踏まえても豊田は最先端の事例になるであろう
- 家『1stPlace』 職場『2ndPlace』 お気に入りのカフェ等『3rdPlace』に続き、公共空間を『4thPlace』として捉える考え方が重要である
- 物理的な『空間』に経験や活動を積み重ねることで自分たちの『場所』にしていくことが大切である
- 良質な食事の提供、市民の健康のための場所、アート披露の場所など様々なアクティビティを起こせるポテンシャルがある
- 用がなくても来てもらう、滞在時間を増やしてもらう工夫が大切／建物の特徴に合わせた連動やにじみ出しのあり方がある